たま 広報

2023年（令和5年） 5月5日号 No.1451

2 清掃活動に参加してみませんか？
3 令和5年度から小型充電式電池を「有害性ごみ」で回収しています
4 民生委員・児童委員は地域の身近な相談相手です
5 子ども・若者関連情報
6 いきいきシニア、障がい者関連情報
7 多摩市職員募集、税、求人・募集、はたらく
8 市民参画、市政その他のお知らせ
9 市政その他のお知らせ
10 講座・催し物
11 健康だより（救急診療など）
12 新型コロナワクチン接種、特殊詐欺を防ぐ！

市長コラム 多摩の風 第112回

蘇った黒澤明監督の「生きる」

黒澤明監督の不朽の名作「生きる」のリメイク版がノーベル文学賞作家カズオ・イシグロの脚本により、第二次世界大戦後の英国を舞台に蘇りました。

どのように描かれたのか、無類の映画好きの私としては、矢も楯もたまらず、映画館へ。

1952年に映画化された黒澤監督の「生きる」は、志村喬演じる市役所の市民課長が主人公。30年無欠勤でとにかく真面目だけが取りえの公務員。

机上は稟議と書類の山。黙々とはんこを押すだけの日々。各課のたらいまわしも日常茶飯事。まさにお役所仕事。ところが、ある日、病院で病魔に蝕まれ死期が近いことを知る…。

カズオ・イシグロはノーベル賞受賞講演で大の映画好きを告白していました。また、子どもの頃、英国のテレビで「生きる」を観て大きな衝撃を受け、ご自身の成長に影響を及ぼしたとの話を、今回知りました。

リメイク版で、英国紳士然としている俳優のビル・ナイは、ロンドン市役所の市民課長を実直にコミカルに演じています。余命を知り、生の呪縛から解き放たれ、最期の人生を自分の力で切り開こうと動き出します。

全編違和感なく引き込まれるように視聴しました。第95回アカデミー賞で主演男優賞にノミネートされたビル・ナイと、脚色賞にノミネートされたカズオ・イシグロによって、見事に黒澤映画の世界が描写されています。私も、小さい大きいではなく先送りせず、魂のこもった仕事をしたい、そう思いました。

（多摩市長　阿部裕行）

発行　多摩市　〒206-8666　東京都多摩市関戸6-12-1　編集　秘書広報課
市役所の代表電話　042（375）8111　代表ファクシミリ　042（371）2008
公式ホームページ　https://www.city.tama.lg.jp/
@tama_city　@nyantomo_tama

たま広報は毎月5日（1月・4月は1日）と20日の月2回発行しており、発行日の2日前から発行日にかけて、市内の全世帯・事業所に配布しています。